

南浦和中だより

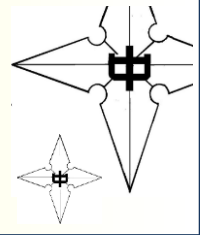
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『夏の終わりのハーモニー』

校長 おお こ うち のり かず 大河内 範一



この夏、マイケル・ジャクソンの映画を観た。マイケルは「キング・オブ・ポップ」と呼ばれ、世界中の人々に愛されたアーティストである。音楽はもちろん、ダンスや映像表現にまで大きな影響を与えた人物なのである。

中でも、私が初めて「ムーンウォーク」をテレビで観たときは衝撃を受けた。足を交互に滑らせながら前に歩いているように見えるものの、実際には後ろへ移動していく不思議なストリートダンスである。前に進んでいるのか、後ろに下がっているのか分からないその動きは、夏休みが終わり、学校に行きたい気持ちと、もう少し休みたい気持ちが入り混じる私たちの心の中と、どこか似ている。

私が高校生だった頃、マイケル・ジャクソンはまさに全盛期であった。文化祭や体育祭の準備をしている教室では、ラジカセから『スリラー』や『ビート・イット』がガンガン流れていた。時が経ち、東京ディズニーランドによく通っていた頃には、マイケルが主演した伝説の3Dアトラクション「キャプテンE O」があった。未来的な映像と音楽は、当時の私たちを大いに魅了したものである。

マイケルの素晴らしさは、幼い頃から厳しい練習を積み重ね、誰よりも高い目標を掲げて努力を続けたことにある。「もっとよい歌を、もっとよいパフォーマンスを」という思いを持ち続け、常に自分を高めようとしていたのである。

さらにマイケルの魅力は、映画にも描かれていたが、とにかく人に優しいことである。そして、周りのミュージシャンやダンサー、スタッフたちと力を合わせ、一つの作品を創り上げていく姿にも表れていた。音楽や芸術は一人だけでは完成しない。それぞれの楽器や歌声が重なり合い、初めて人の心を動かす響きが生まれるのである。

1985年に発表された大ヒット曲『We Are The World』もその代表例である。アフリカの飢餓に苦しむ人々を支援するチャリティーソングとして、多くのアーティストが集まり、その中心となった一人がマイケルであった。この曲名には、「私たちは同じ世界に生きる仲間であり、一つの家族である」という強い願いが込められていた。

ということで、この夏は車の中でマイケルのCDを聴き、家ではYouTubeで動画を観るなど、久しぶりにマイケル一色の日々を過ごしていた。自分の靴を水洗いし、つま先を下にして立てて乾かしているのを見ると、マイケルに見えてくるほどであった。

さて、2学期が始まる。合唱コンクールへの取組も本格的になってくる。一人ひとりが個性という音色を大切にしながら、仲間と共に美しい響きを生み出してほしい。そして、この夏の終わりに奏でられるハーモニーが、これからの学校生活をさらに豊かなものにしてくれることを願っている。もっとも、ムーンウォークのように後ろへ滑っていくのではなく、一步一步、前に向かって進んでいってね。